

# 第3章

---

## 計画の目標

---

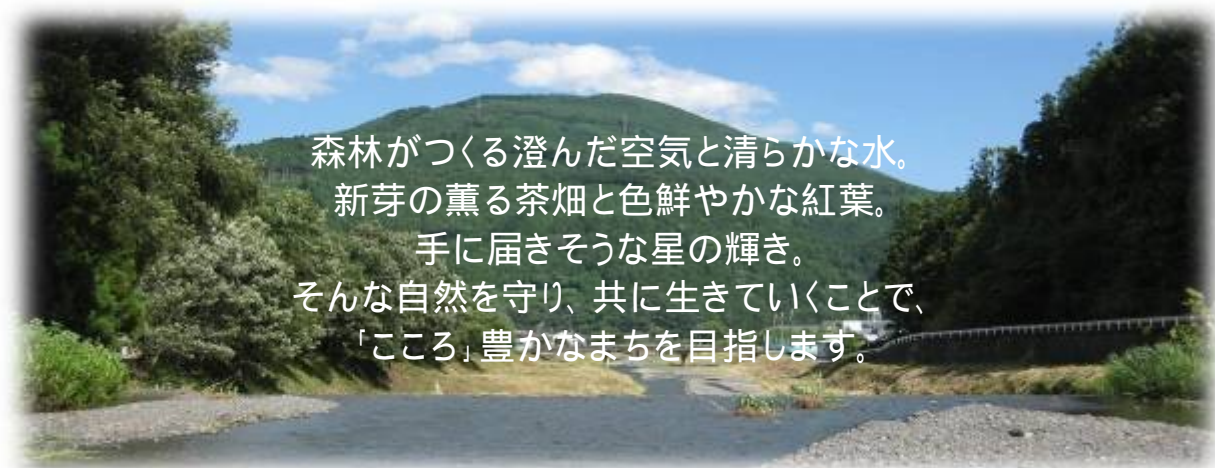
本章では、長期的な視点のもと、本町が目指すべき 20～30 年後の「望ましい環境像」を定めます。また、望ましい環境像を実現するための「環境目標」を示します。



## 第1節 望ましい環境像

望ましい環境像とは、環境課題を踏まえたうえで、本町がこれからどのような環境を目指して計画を進めていくのかを示す長期的目標です。今後、20～30年後の環境像を「望ましい環境像」として設定します。

### 「自然と共生する豊かなまち 川根本町」



## 第2節 環境目標

望ましい環境像を実現するための柱として環境目標を定め、この環境目標のもとに、具体的な施策を展開していきます。また、それぞれの環境目標が目指すイメージ像を示します。

### 1 自然と人々の営みが調和するまち

私たちは恵まれた本町の自然環境について学び、認識を深め、町民共通の財産として守り育てていき、自然と人々の営みが調和するまちを目指します。



#### 【イメージ像】

持続可能な森林管理が行われ、町民や事業者がボランティアとして貢献している。

町の特産物である川根茶の香る茶畑が一面に広がり、茶畑には多くの観光客がやってきて、体験農業を楽しんでいる。水量が豊かで、水の濁りがない大井川の清流が蘇り、たくさんの魚や野鳥が生息している。

低地帯から高山帯まで多くの野生動植物が生息・生育しているが、外来種は極力排除されている。

里地里山の管理が行き届き、人と野生鳥獣とが共存・棲み分けをしている。

本州唯一の原生自然環境保全地域など、南アルプスの手つかずの自然が保護され、世界遺産登録への気運が高まっている。

本町の自然が大井川流域の「水と森の番人」として機能するとともに、下流域の人々との連携を図っている。

## 2 人・自然・歴史文化のふれあう美しいまち

快適な環境を保全・創造していくことは、そこに住む私たちの心を豊かにし、地域を魅力的にしていくことに繋がるため、人と自然、歴史文化などがふれあう美しいまちを目指します。



### 【イメージ像】

森林浴や体験農業、自然観察など多彩なエコツーリズム・グリーンツーリズムのプログラムが開発され、全国・世界中から人が訪れている。

子どもたちや大人が気軽に河川や森林に入り、四季折々のふれあい活動を楽しんでいる。

子どもたちが安心して遊ぶことのできる公園や緑地が身近な場所に整備され、町民・事業者による管理が行われている。町全体が大井川の原風景と調和し、周囲の自然景観に溶け込んだ建物や工作物などに統一されている。

歴史や文化を学び守ろうという人が増え、地域のお祭りや吊橋などへの注目が高まっている。

## 3 おいしい水と空気を守るうるおいのあるまち

生命の源であるおいしい水と空気を守り、人や動植物、生態系にとってうるおいのある健全な環境づくりを進めていきます。



### 【イメージ像】

公害に対する苦情を言う人は誰もいなくなっている。

鉄道やバスなど公共交通機関の利便性が向上し、低公害車など低炭素な交通機関を利用する人が増えている。

空気がきれいでも光害もなく、全国で最も星の観測に適した夜空となっている。

自動車の走行などによる騒音・振動がない一方で、SLの警笛が山々にこだまして聞こえ、お茶の香りを楽しむことができる。

合併処理浄化槽を設置する家庭が増え、川の水がきれいになっている。

町民・事業者の意識が高まり、洗剤の使用量など排水の流し方に配慮するようになっている。

## 4 資源・エネルギーを大切にすまち

自分たちの行動が地球環境にも影響を与えていることを町民一人ひとりが自覚し、地球環境保全に向けた取り組みの実践に努めていきます。



### 【イメージ像】

ごみの減量と再資源化が進み、町民1人当たりのごみの量は大きく減少している。  
町民全員がマイバッグを持参し、過剰包装やレジ袋を使う店舗はなくなっている。  
町内の全地区で廃食用油の回収が行われ、リサイクル利用されている。  
間伐材や農業・畜産物などが再生可能なエネルギーとして広く利用されている。  
町・町民・事業者が協力・連携し、不法投棄は未然に防がれている。  
町民や観光客の意識が高まり、ポイ捨てごみはどこにも見当たらない。  
緑のカーテンや省エネ機器の利用などが浸透し、省エネ型のライフスタイルが基本となっている。  
ISO14001やエコアクション21などの環境マネジメントシステムが浸透し、環境負荷の低減が図られている。  
風力発電や太陽光発電に加え、薪ストーブなどの木質バイオマスや小規模水力発電など、本町に合った新エネルギーが導入されている。  
森林の適正管理などにより、二酸化炭素の固定化能力を高め、地球温暖化に貢献している。

## 5 森林の恵みに感謝する心を育てるまち

町・町民・事業者が環境の恵みについての基本的な知識を修得し、理解を深め、環境の保全及び創造に向けた意欲を持つための支援や情報提供、人材の育成を図っていきます。



### 【イメージ像】

老若男女を問わず、環境教育・環境学習が生活の一部として定着している。  
森林セラピーや森林レクリエーションなど、森林を活用した環境教育が進められている。  
環境保全に取り組むボランティア団体の活動が活発化し、環境リーダーとして活躍している。  
ブロードバンドが全世帯に普及し、どこからでも環境情報が利用できるようになっている。